

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりが「確かな学力」を身に付け、自ら課題を発見し解決する力の育成を図るとともに、個に応じた学習機会の拡大を促す。</p> <p>②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。</p>	<p>①確かな学力育成のために「学びなおし」の視点を踏まえた授業実践を行う。基礎学力の定着を図り、生徒が達成感を感じられる授業を実践し、インクルーシブ教育を意識した、個に応じた学習指導を行う。</p> <p>②生徒会行事の活性化を図り、主体的な活動を支援する。部活動では生徒の自主性、主体性を育み、活動状況を校内外に発信し部活動を活性化させる。</p>	<p>①習熟度別授業や補習により、個に応じた学習指導を実践する。</p> <p>①ICT活用やTTによる授業実践に関する校内研修を行う。</p> <p>②コロナ収束に伴い、制限のない行事を実践し、生徒主体の企画運営に向け指導助言する。</p> <p>②部活動見学を実施し、部活動への積極的な参加を促す。各部の活動状況や大会結果等を校内外に発信して部活動の活性化を図る。</p>	<p>①「生徒による授業評価」の結果により、個に応じた指導ができたか。</p> <p>①ICTを活用した授業が増加したか。</p> <p>①TTによるわかりやすい授業を実践したか。</p> <p>②生徒会行事や部活動を通して、生徒の主体性を育成し、人間力を高め、達成感や充実感を獲得できたか。</p> <p>②部活動加入率を向上できたか。</p>	<p>①「生徒による授業評価」の結果を見てもほぼ全ての教科で8割以上の生徒が質問に対して当てはまると回答しており、個々に応じた指導を実施できた。</p> <p>①校内研修等を行うことでICTを活用した授業を増やすことができた。</p> <p>②コロナが明け、学校行事や部活動において、生徒の主体性を育成し、支援する事ができた。その結果、多くの生徒が達成感や充実感を獲得した。</p>	<p>①令和6年度からのインクルーシブ教育特別募集の生徒を含め、個々の習熟度の差が大きいので、これまで以上に工夫し、個に応じた学習指導を行っていく必要がある。</p> <p>①ICTやTTの活用法をしっかりと考え、よりわかりやすい授業を実施できるようにしていく。</p> <p>②生徒会行事が更に充実した内容となるよう支援する。</p> <p>②各部の活動状況を校内外に積極的に発信し、部活動の活性化と部活動加入率を上げていく。</p>	<p>・「自ら課題解決する力」の育成を目指す上で、生徒による授業評価を積極的に行い、生徒と共に教育内容のあり方を考えていく体制を作っていくことは、個のレベルアップにも繋がります。</p> <p>・ICTの活用を活用した実践型授業も増やしており分かりやすい授業展開をしている。生徒が自主的な学習を進められるようなプログラムの活用を期待する。</p> <p>・インクルーシブ教育は今後必要とされる教育の形の一つと考えられるので、来年度に向け、その特色や良さを発信していく事が重要である。</p> <p>・行事や部活動に関して、達成度の評価をどう行うかは難しいと思うが、生徒会や各部の部長と教員との話し合いで、活動のチャンネルを増やせると良い。</p> <p>・周年行事や学校行事での生徒の様子から、全体として落ち着いた雰囲気と活発さがある。</p>	<p>①個に応じた学習活動において、ICTを活用することで、学習活動への意欲が向上し生徒による授業評価において、8割以上の生徒が授業内容に満足を示し、充実感や達成度が向上した。</p> <p>①ICTやTTの活用法を考えた校内研修を行うことができた。</p> <p>①インクルーシブ教育を意識し、個に応じた学習指導ができた。</p> <p>②コロナが明け、部活動の校外競技会やコンクール等が開催され、生徒の主体性を支援する事ができ、多くの生徒が達成感や充実感を獲得した。</p> <p>②部活動の活動状況をホームページ等で積極的に発信できなかった。</p>	<p>①社会的、職業的自立を支援する「確かな学力育成」の観点から個人の多様性に合わせた着実な学びを促進する。</p> <p>①インクルーシブ教育を推進し、個別の学習ニーズに配慮した学習指導を行う。</p> <p>②今年度の行事の反省を次年度に反映させ、行事の充実を図る。</p> <p>②部活動の活動状況をホームページ等でより積極的に発信し、更新内容を計画的に整理し、学校生活の活性化を図る。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立を図り、モラル・マナー・ルールを守る自律した生徒の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に対応した支援体制の充実を図る。</p>	<p>①規律意識の醸成を図り、生徒の自律を促す。</p> <p>②きめ細やかな生徒指導と生徒把握に努め、諸問題の未然防止を図るとともに、課題解決のために関係職員と協力して対応する。</p> <p>②多様な生徒に対応するため、より一層精力的にSC、SSWや学校外の教育機関と連携して教育相談体制を充実させる。</p>	<p>①教員同士の密な情報共有と生徒への積極的な働きかけにより、規律意識を高め、生徒の自律を促す。</p> <p>②生徒への声かけや面談を通して心身の変化に気づき、困り感を聞き取る等、速やかな課題解決を図る。</p> <p>②担任、学年、SC、SSW、相談コーディネーターとともに外部機関との連携を深め、生徒一人ひとりの課題に対応し、ケース会議を開く等、組織的な支援を行う。</p>	<p>①特別指導、学年指導、近隣からの苦情件数等が減少したか。</p> <p>①生徒の自律性の向上が見られたか。</p> <p>②SC、SSWと生徒、保護者との面談回数は増加したか。</p> <p>②外部の相談機関等との連携は増加したか。</p> <p>②ケース会議を適切に開催したか。</p>	<p>①きめ細かい指導の結果として、特別指導件数は増加した。</p> <p>①生徒会が主導してごみ拾い活動を行った。</p> <p>②SC、SSWの勤務が増えたおかげで、相談件数が増加した。</p> <p>②外部機関との連携は増加している。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に組織的に対応して、ケース会議は適切に開催された。</p>	<p>①特別指導の件数の増減にかかわらず、生徒が健やかに成長できるよう、指導していく。</p> <p>②外部機関を適切に頼ることで、生徒を支援していく。</p> <p>②引き続き適切にケース会議を開き、生徒支援に尽力する。</p>	<p>・教員同士の情報交換や、きめ細かい生徒指導により、生徒は基本的な生活習慣を確立できている。</p> <p>・SCやSSW、外部機関の利用等によるきめ細かい生徒支援の充実は大変素晴らしいと考えられる。専門家との連携の充実は、今後多様化するニーズに応じる上でも有効と思われる。</p> <p>・健康的な生活リズムの獲得は、学習習慣を身に付ける為にも重要なので、その重要性を理解してもらいたいです。また、生徒の精神的な健康を維持する為にも、年間を通じた指導を期待します。</p>	<p>①きめ細やかな個別指導により問題行動の未然防止、再発防止を図った。</p> <p>①登下校時のルールやマナーに関する指導は今後も継続して取組むべき課題である。</p> <p>②SCやSSW、外部機関と連携し教育相談体制の整備ができた。</p> <p>②教員間の積極的な情報共有と保護者との連携を密にし、生徒に寄り添ったきめ細かい指導ができた。</p>	<p>①個々の事案を検証し、継続的に未然防止策を検討する。</p> <p>①登下校時や自転車利用に関するマナーについては、啓発活動を継続的に行っていく。</p> <p>②ケース会議等の開催を通して生徒情報の共有化を推進し、生徒指導・教育相談のより一層の充実を図る。</p> <p>②生徒の自己教育力の育成に向けて、開発的な生徒指導の推進を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの自己実現と社会的・職業的自立を支援する進路指導の充実を図る。	①生徒一人ひとりが自らの良さに気づくとともに資質・能力を伸ばし、将来の進路・キャリアにつながる進路指導・支援を実現する。 ②インクルーシブ教育における生徒受け入れに向けて、具体的に実行可能な計画等を作成する。	①「総合的な探究の時間」を通して自己理解や課題解決力を育む。 ①ガイダンス機能を充実させ、生徒が多様な生き方やあり方を考え、将来の進路選択につながる指導を行う。 ①基礎力診断テストや実力テスト等により、生徒が学習成果を振り返り、上級学校等へ進学する学力を身につける支援する。 ②令和6年度1年間のキャリア科目の指導案を作成し、インターンシップ受け入れ事業所を開拓する。	①「総合的な探究の時間」を目標と計画に基づき実施できたか。 ①進路面談や集会等の中で、情報提供とともに社会や世界の変化を意識した指導ができたか。 ②実践可能な指導案を作成できたか。 ②受け入れ先の事業所を開拓できたか。	①各学期のガイダンス指導や三者面談、オープンキャンパス、会社訪問等の機会を活用して、卒業後の進路選択につなげることができた。(3年生:1月31日現在80%以上が進路先決定) ②基礎学力診断テストや実力テストを計画に従って実施し基礎学力の定観測を行った。 ②学校幹旋(就職)により36名の生徒が内定となった。(令和6年1月末就職活動者3名)	①自らより高い目標を設定し、どのように資質・能力を伸ばし、挑戦する生徒を育成するかが課題である。 ②進路希望先の情報を十分理解しない状態での進路選択をする生徒に対して、必要な情報収集や活用のし方等について一層丁寧に指導・支援する必要がある。 ②変化の激しい現代社会において、進路指導・支援・キャリア教育を担う人材の育成が急務となっている。	・「総合的な探究の時間」を通じて生徒は一人ひとり自己を理解し、将来の進路につながる指導ができています。 ・これまでの取組の成果として高い進路決定率が実現していると思われる。そのため、「キャリア」に関する教育が今後ますます重要になってくると感じる。 ・各業界の人手不足を背景に、若手人材への期待が高まっている。進学、就職を問わず選択肢が増えているので、より具体的な情報が・徒に届く事を期待する。 ・早期に進路変更した卒業生の事例情報も蓄積し、卒業生のフォローに生かせるような体制を作ることで、学校への信頼感につなげてほしい。	①「朝の読書」・「総合的な探究の時間」の学習を通じて思考力、判断力の育成を図った。 ①生徒一人ひとりに対して、社会的・職業的に自立した自己実現に向け、多種多様なツールを活用し、適切な支援と相談体制ができた。 ②インターンシップ等の体験的な活動の機会が十分に生かされなかった。	①「朝の読書」で生きる力を、「総合的な探究の時間」で自らの進路を考える力を養うためにそれぞれ重要な機会と捉え、意見の発信、交換をする機会の拡充を図る。 ①進路情報をわかりやすく整理して生徒に示し生徒自身の選択する能力を養う。 ②校外での体験的な活動をキャリア育成や進路選択につなげる取組を推進する。
4	地域等との協働	①地域・保護者等との連携・協力を推進し、信頼される学校づくりに取り組む。	①生徒の活動を積極的に発信し、本校の教育活動の理解と信頼される学校づくりを進め、インクルーシブ教育推進実践校としての取組を周知する。 ②PTA活動やボランティア活動を通して、地域等との協働を図る。	①ホームページの充実を図り、学校説明会やオープンスクールの実施により本校の魅力やインクルーシブ教育について積極的に発信する。 ②PTAと連携してボランティア活動や行事の活性化を図り、地域行事への参加を通して地域との交流を深める。	①本校の特色とインクルーシブ教育について効果的に広報できたか。 ②PTAと密に連携できたか。 ②地域主催の行事へ参加できたか。	①ホームページを積極的に更新し、情報発信に努めた。年3回の学校説明会に加え、学習塾への訪問や夏の学校見学会を新規実施し、広報活動を充実させた。 ②PTAと連携しての地域活動への生徒の参加が少なかった。情報の共有が不十分であった。	①学校説明会の実施については来年度新入生アンケートの結果をもとによりニーズの高い内容を検討し、発信したい。 ②地域交流やボランティア活動のノウハウを、関係グループで情報共有し、継続してPTAと連携して地域貢献の機会を増やしていく。	・インクルーシブ教育の実施は菅高校の新たな特色づくりの機会になると思われるので、取組状況を積極的に地域に発信し、地域ぐるみでインクルーシブ教育の形づくりにつなげていってほしい。 ・ボランティア活動等を通じて地域との関係が図られており、交流も深まった。PTAとの連携も上手く図られており、地域活動や校内活動も充実している。 ・周辺の小中学校と連携した活動を深めることで、教育に興味を持つ世帯へのアピールを強めていってほしい。	①学校ホームページを計画的、効果的に更新し、学校の様子やインクルーシブ教育について発信することができた。 ②コロナの影響もまだ残っており、PTAや地域との連携や協働においてはまだまだ十分ではなく、地域活動の在り方を検討した。	①今年度の反省を次年度に生かし、学校ホームページの充実を図るとともに、菅高校の魅力を発信する。 ②ボランティア参加を奨励し、生徒が活躍する機会の拡充と、近隣地域の方との交流を深め、地域貢献と生徒活動の充実を努める。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止対策の徹底を図る。 ②働き方改革、及びICT機器利活用等の教育環境の整備を推進し、円滑で効率的な学校運営に取り組む	①成績処理や個人情報扱い、体罰等による事故・不祥事防止を徹底する。 ②教育活動全般でのICT活用と学校運営の情報化を図ることにより、業務改善と働き方改革を進める。 ②業務の見直しを図り、スクラップ&ビルドを進める。	①複数による点検業務を徹底し、職員間のコミュニケーションを密にすることで風通しよい職場環境を構築する。 ②ICT活用に関する研修を複数回実施し、教育活動や業務の情報化を進める。 ②必要ない業務について積極的に提案し、業務削減を図る。	①入選業務や成績処理で効率化を進め、無事故を達成できたか。 ②ICT活用に関する研修を実施したか。 ②情報化推進により、教育活動や学校運営の効率化を図り、必要ない業務が削減できたか。	①入選業務や成績処理では、無事故を達成できた。 ②授業互見週間や管理職の授業観察期間にICT活用のある授業実施を依頼し、数多くの教科で実践がなされた。	①今後も点検業務を怠らず、入選業務や成績処理においてミスが生じないように徹底する。 ②経年劣化によるプロジェクターや接続ケーブルの不具合が多くあった。予算確保も含めた次年度への機材拡充が課題である。	・入選業務においては中学校からの書類を細かく確認し、不備については適切な対応ができた。 ・教職員の過重労働が社会問題化する中、計画的な対応ができています。ICT機器を利用することで、より効率的で安全な運営体制が構築されることを期待する。	①入選業務や成績処理等での事故・不祥事防止に対する意識が高まり、安全に作業ができた。 ②教育活動全般でのICT活用と情報化を図ることにより、業務改善と働き方改革を進める事ができた。 ②業務アシスタントの業務補助により職員の負担軽減が図られた。	①適切な業務の遂行により、事故防止と業務の効率化の両立を推進する。 ①作業マニュアルのさらなる整備をし、働き方改革を進める。 ②ICT利活用に向けた環境整備と、職員の活用スキルの向上を更に推進する。

